

新 勝負服は地場産

二つのバスケットボールリーグが統合して新たに生まれたプロリーグ「Bリーグ」の3部にあたるB3に所属する金沢武士団（サムライズ）は、10月1日に埼玉ブロンコス戦（埼玉・春日都市総合体育館）で初戦を迎える。今季からユニホームサプライヤーとして中能登町の繊維織物メーカー・丸井織物と契約。地元メーカーの後押しも受け、優勝とB2昇格を目指す。

「かなり軽いし、薄い」。8月上旬、金沢市内の体育館で新ユニホームの試着をした井手勇次選手（28）は驚きを口にした。丸井織物は海外の大手スポーツ、アパレルメーカーに生地を供給してきたが、最終製品を自社で手がけたのは初めて。「バスケットのユニホームはほとんどが『編み』の生地ですが、うちは『織り』。薄く軽く作れた」と同社経営企画室の岡島彩さんは胸を張る。サッカーの代表チームなどで採用された生地

を使用したという。

アディダス、ナイキ、アシックス——。サッカーや野球などプロスポーツチームのユニホームといえばスポーツ用品メーカーが供給するのが通例で、地方の繊維メーカーが手がけるのは珍しい。今年2月、20～30代の若手社員10人がプロジェクトを立ち上げ、サプライヤー契約をサムライズに提案。狙いは地元チームの後押しと自社ブランドの発信だ。縫製メーカーなどと連携しながら、ユニホー

自慢の「織り」繊維メーカー供給

ム、練習着、移動着の製品化にこぎつけた。

「リーグ優勝と2部昇格を目指すなか、本当にありがたい。こういう支援は聞いたことがない」とサムライズの中野秀光社長。創立1年目の昨季はbjリーグ西地区で12チーム中7位と健闘したが、大幅な赤字を計上。財務安定に向けてスポンサー集めに奔走しているだけに、地元からの支援に感謝

している。丸井織物の宮本好雄専務は「費用数百万円は若手の人材育成の投資もある。スポーツ界でのビジネスに展開できるかはこれから次第」と、反響に注目する。

サムライズの今季ホーム初戦の大塚商会アルファーズ戦は10月8日午後6時から、七尾市小島町の七尾総合市民体育館で。

（塩谷耕吾）

薄くて軽い



新しいユニホームを試着した金沢武士団の選手ら＝丸井織物提供